



健康的な天然木材の床

フローリング・ニュース

発行所: 一般社団法人日本フローリング工業会
編集責任者: 広報法務委員長 石本勝範

〒112-0004 東京都文京区後楽 1-7-12 林友ビル 6F
TEL 03-3868-0971 FAX 03-3868-0972 <https://www.j-flooring.jp/>

「フローリング張り標準仕様書」の改定案が固まる

今年4月から適用された国土交通省の公共建築工事標準仕様書の改定、8月のJASの改正では、工業会の意見を大幅に取り入れていただくことができました。

一方では、工業会の「フローリング張り標準仕様書」も、これらの改正に則しての見直しを行うことが必要となり、技術委員会の下に、「フローリング張り標準仕様書改正委員会」を本年5月に設置して、仕様書改正に向けた議論を精力的に進めた結果、12月17日の理事会で、新しい標準仕様書案が承認されました。

来年3月頃には新しいフローリング張り標準仕様書の印刷物を会員様の下にとどけられるよう作業を進めているところです。

新しい工業会の標準仕様書は、JASや国土交通省の標準仕様書と整合性のとれたものとなっているため、従来にも増して、公共的事業はもとより、広く一般施工において重用されるであろうと考えています。

この改正を機会に、あらためて標準仕様書へのご理解と、普及に向けたご協力をお願いいたします。来年には、新しい標準仕様書の説明会を開催したいと考えています。

フローリング張り標準仕様書の 今回改定の概要

1. フローリングの日本農林規格への準拠

令和元年8月15日改正に準拠するために修正した。

2. 国土交通省 建築工事標準仕様書との整合性

平成31年3月29日改正との整合性をとるために、直張り(ノリ釘併用及び釘打ち)工法、根太張り(ノリ釘併用)工法、直張り接着工法を釘留め工法と接着工法に再編した。

3. 湿式工法の削除

材料の供給が今後見込めないため削除した。

4. 工法の図を追加、変更

釘留め工法、接着工法の図を追加した。

5. 副資材の修正

シリコン樹脂系接着剤を追加し、アクリル樹脂系エマルジョン系接着剤を削除した。工法別に釘の種類と長さ、接着剤の塗布量を修正した。

6. 研磨(素地ごしらえ)と塗装の工程の修正

研磨紙の番手、養生時間を修正、ワックス塗りの工程を削除、オイルステインの工程を追加した。

7. 養生の再編

塗装仕上げ後と表面塗装済に大別し、再編した。

8. 保守管理の再編

樹脂塗装仕上げと自然塗装仕上げに大別し、再編した。

9. 床暖房用フローリングの工法の修正

床暖房の種類を修正、フローリング張り工法の再編に伴って工法を修正した。

10. 体育館用フローリングの工法の修正

フローリング張り工法の再編に伴って、重複していたフローリングの種類や工法をフローリングボードと複合フローリング、ノリ釘併用工法とビス留め工法に整理、再編した。

11. 各章様式の統一

章節項と注意書き、用語等の様式を統一した。

施工流通部会総会が沖縄にて開催される

令和元年10月9日（水）

10月9日に施工流通部会の総会が初めて沖縄市で開催され、36名が参加して活発な情報交換が行われました。

森部会長は、「本年は念願のフローリングジェネラル制度がスタートし、この沖縄にて第1回の講習会を実施することができた。技術委員長が建築工事監理指針に、良質な施工を確保するために工業会がフローリングジェネラル制度を設けていることを執筆していただいた。本制度により会員以外との差別化を図っていきたい」と挨拶しました。



各部会・委員会・支部からリアルタイムの情勢報告がなされたあと、最後に、(株)タナベ経営コンサルティング本部沖縄支店の小池一嘉氏(チーフコンサルタント)から「取り巻く経済環境とサステナブル経営」と題した講演会があり、沖縄県のパフォーマンスや現在マンションなどでバブル的な現象が起きていることなどが紹介されました。

懇親会では、西野まもる氏他2名による沖縄民謡が披露され、華やかな雰囲気での懇親・交流の場となりました。

生産部会総会が東京にて開催される

令和元年11月8日（金）

11月8日に生産部会が久しぶりに東京で開催されました。



生産部会は北海道フローリング協会と共同事業を行っていたこともあり、北海道札幌市での総会開催が続いていましたが、同協会が解散したことから、今年は全国から集まりやすい浜松町東京會館で開催し、今後の生産部会の活動などについて討議しました。

議論の結果、来年度の総会開催場所は、木村生産部会長が諸般の状況を勘案して判断することとなり、今後の生産部会活動の一つとして、外部機関が発表した客観的な資料・データに基づく、木質フローリングの利点等を整理したPR資料の作成を進めてみることとなりました。

また、出席部会会員の全社から情勢報告があり、部会長が、「全体的に北は辛く、南は元気な印象を受けた。広葉樹等の原料不足問題は工業会メンバーが助け合えるものは助け合って進めていければと思う」と総括しました。



7月 理事会

令和元年7月30日（火）

第1回フローリングジェネラル講習会が
開催される

木質フローリング検討懇話会の森座長（施工流通部会長）から、木質フローリング検討懇話会メンバーにより企画・実施をした第1回フローリングジェネラル講習会の状況と今後の開催方針について報告がありました。

このほか、石本合同PR検討委員会委員長から本年度の合同PR共通趣意書の作成について、技術委員長からフローリング張り標準仕様書改正委員会の設置と開催状況、国土交通省の公共建築工事標準仕様書の改正、農林水産省のJAS改正手続き状況等について報告がありました。また、各地区からの情勢報告、理事会当日午前中に正副会長が行った中央官庁需要促進活動の報告がありました。

理事会の議事開始前には、林野庁木材産業課眞城課長による「林業・木材産業の成長産業化の実現に向けて」と題して講演が行われ、林野庁の木材産業に関する広範な施策の状況や最近の動向などを紹介していただきました。



第2回理事会
＝令和元年7月30日（林友ビル）

12月 理事会

令和元年12月17日（火）

フローリング張り標準仕様書の改定案、
令和2年度予算案が了承される

表紙で紹介のとおり、佐藤技術委員長が今回の改定の経緯・考え方や改定の概要を説明して了承されました。

このほか、専務理事から令和元年度の見込み決算、令和2年度の予算案を説明し、原案どおり了承されました。

また、木村生産部会長と森施工流通部会長から各支部の総会の開催状況、合同PR検討委員会から各支部の実施状況、各支部長から各地区からの情勢報告がありました。近畿・中国・四国支部からは、初めての試みとして大阪で開催された職業体験セミナーに参加し、来場生徒が関心を示し、ブースが活況であったことなどの報告がありました。

専務理事から令和2年度の総会については、令和2年3月4日（水曜日）に浜松町東京會館で開催を予定していることの説明がありました。

理事会の議事開始前には、林野庁木材産業課眞城課長による「林業・木材産業の成長産業化について」と題して講演が行われ、最近の話題や7月理事会で深く触れられなかった事項などを豊富な資料に基づいて紹介していただきました。



第3回理事会
＝令和元年12月17日（木材会館）

非住宅建築物の木造化がビジネスに寄与している例

新柏クリニック（千葉県柏市）の平成28年に完成した建物は、木質耐火部材を用いた医療施設としては国内屈指の大型耐火木造建築物で、ウッドデザイン・林野庁長官賞を始め数々のデザイン賞を受賞しています。内部には、カラマツ集成材柱、ヒノキ天井材が使われています。

病院によると、木造化によってリラックスできるオーガニックな空間が広がっているからか、利用患者数が増え、看護師のリクルートでの応募数も増加するなど、ビジネス上の効果も上がっているとのこと。



（写真は林野庁HPから）

九州支部だより

平川 和彦 九州支部（株式会社平川木材工業）

早いもので今年も締めくくりの時節となりました。去る10月9日沖縄県那覇市で施工流通部会・総会を開催致しました折には全国各地より多数ご参加頂き誠にありがとうございました。又、翌日には好天に恵まれてゴルフ、観光と多くの方が楽しまれたのではないかと思います。

しかし、その日は台風19号が中部・関東地方に向かっており、私達もその進路を大変心配した次第でした。不幸にも被害に遭われた方には心よりお見舞いを申し上げます。

又、その後の10月31日未明にはショッキングなニュースが飛び込んできました。

那覇市にある世界遺産の首里城の火災です。正殿を含む主要7棟が全焼しました。沖縄県民はもちろん日本国民にとって非常にショックな出来事でした。聞く所によりますと木造の大部分を台湾桧とイヌマキが使用されていて、再建時は木材の選別も難しい問題になるそうです。

我々国民は一日も早い首里城の修復、再建を願い、出来ることがあれば協力していきたいと思う次第です。



ひとこと

久津輪 光一 九州支部（池見林産工業株式会社）

ここ数年、毎年のように日本のどこかで「天災」＝「自然の驚異の力」を否応なく見せつけられています。我々人間の持つ力が自然の驚異の力の前では米粒のように感じてしまいます。その自然の力とは、水の力、風の力、地球内部の力、等々としてつもない大きさであり、抗うことも出来ないほどの威力に満たされています。この自然の災害に突然出逢ったときの「人」の表情はどうなるのでしょうか？自分の生活に災害が降りかかったときに、その顔には「落胆、諦め、茫然自失」との表情が次々に襲ってきます。どうして生きていくべきかの葛藤に苛まれることだと思います。

しかし、ここからが人間の持つ米粒では無い「本当の力」です。人は一人一人の力では出来る事に限りがありますが、助け合うことにより大きな力を享受することが出来ます。ひとたび災害になれば全国からボランティアが被災地を無償の力で救いに現れます。家の中の汚泥の撤去、屋根へのブルーシート貼り、中には数千万円もの巨大な費用をいとわずに、災害復旧、撤去にあたった会社様も現れました。TV画面を通してその撤去作業の光景に目を潤ませておりました。ありがたいことです。人間にしか出来ない行動かもしれません。

11月に開催された「ご即位をお祝いする国民祭典」の中で人気グループの「嵐」が歌った奉祝曲の歌詞の中に「僕らは君のそばにいる」「大丈夫君と歩いて行こう」という言葉が入っていました。この中の「君」と言う言葉の中に、今年被災に遭われた方々のこともふくまれていたように私は感じました。

住宅業界、建築業界の中で禄を食ませて頂いている私たちにも「君のそばにいて、一緒に歩いて行くこと」が出来ると何かがあるはずで。考えて、考えて、お役に立ってまいりましょう。今年の災害に出逢って、ふっと考えた「ひとこと」です。

●広報法務委員

委員長 石本 勝範

委員 佐藤 仁明 委員 矢野 伸和

委員 清見 謙造 委員 當舎 弘造

●会員動向 令和元年12月25日時点

正会員	52社
賛助会員	19社
合計	71社

●告知板

3月4日(水) ...令和2年度通常総会(東京)

編集後記

平成から令和となった年ももうすぐ終わります。4月に国土交通省の公共建築工事標準仕様書が、8月には日本農林規格(JAS)が改正されました。いずれも工業会の意見が大幅に取り入れられた改正となり、厳しい環境が続くフローリング業界にあって、未来に向けた明るい話題となりました。令和時代は明るい話題を毎年お届けできればとの思いでいます。

